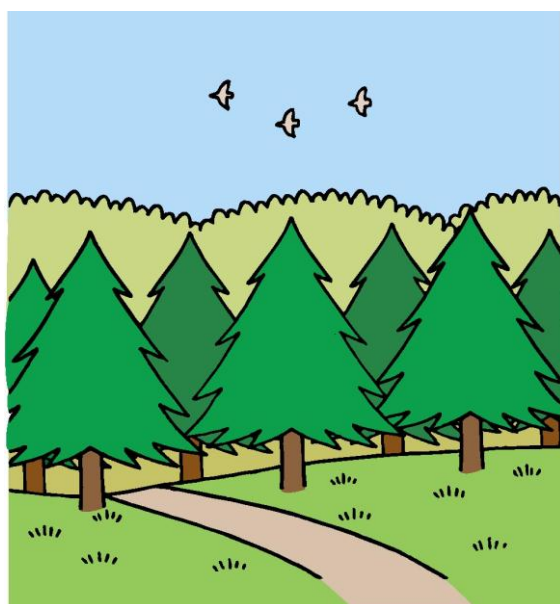


西恋ヶ窪緑地整備方針



国分寺市

目 次

I、はじめに	1
II、エックス山等市民協議会の役割	1
III、社会的要請とエックス山の存在意義	1
1、雑木林に見る歴史的背景	1
2、エックス山の現状	2
3、エックス山の存在意義	2
IV、市内緑の実態	3
V、エックス山等市内緑の整備の方向性	4
1、「国分寺市緑の基本計画」の具現化	4
2、エコミュージアムの重要な拠点としてのエックス山	5
3、エックス山に対する市民の願い	5
(1) エックス山を利用している周辺住民の意向	5
(2) 市民の意向(団体ヒヤリングを踏まえて)	5
VI、エックス山整備方針	6
1、エックス山等市民協議会のエックス山整備の理念	6
2、エックス山整備の方針	6
3、エックス山整備の具体的内容	7
4、エックス山整備の方針に基づく作業計画	8
VII、今後の展望	9
◎西恋ヶ窪緑地整備方針全体計画表	10

西恋ヶ窪緑地整備方針

I、はじめに

西恋ヶ窪緑地（通称エックス山、以後「エックス山」という）は平成14年度に市有地化され、都市計画緑地に指定された1.1haのコナラ・クヌギを主要木とする平地林であるが、平成18年度には、その西側に隣接する2,600㎡が都市計画緑地として追加され、1.36haの広さとなる。国分寺市には、国分寺崖線沿いに樹林地が多少残されているが、平地にこれだけの広さをもつ樹林地は珍しい。エックス山には、林内の日影を好む陰地植物や昆虫などの動物が生息し、林縁にはマント群落が構成されるなど生物の多様性が保全されている。それだけに市民としてはこの樹林地を末永く市民の共有財産として大切にしていきたい。

II、エックス山等市民協議会の役割

エックス山等市民協議会（正式名称は「通称エックス山等整備方針の検討に関する市民協議会」）は、エックス山をはじめ、市内の樹林地、緑地、水辺などの自然環境を保全するために、市民と市が協働で管理方針を検討するため、エックス山が公有化されると同時に組織されたものである。

この組織には、市民の多様な意向を汲み上げ、市民と市の協働により、良好な自然環境をまもり、多様な生態を保全し、それらを市民に提供していきたい、との願いが込められている。

III、社会的要請とエックス山の存在意義

1、雑木林に見る歴史的背景

武蔵野の雑木林は、江戸時代の新田開発とともにつくられ、昭和20～30年代までは、農用林・薪炭林として利用されてきた。

昭和30年代に、燃料が薪炭からプロパンなどに替わる、いわゆる燃料革命が起き、農業形態も、堆肥から化学肥料にたよるようになり、雑木林が顧みられなくなった。

そのため15～20年ごとに繰り返されてきた萌芽更新も行われなくなり、今では萌芽更新が難しい大木となってしまった。林床にはアズマネザサが生い茂り、それにつれて植生も大きく変化している。

近年、環境問題に関心をもたれるようになって、里山のよさが再認識されるとともに、荒れはじめていた雑木林が改めて見直されるようになってきた。最近では、雑木林の保全・再生が注目され、雑木林に昭和20～30年代とはまた違う視点からその利用が検討されるようになり、再び、雑木林が脚光を浴びるようになった。

エックス山も江戸時代より続く農用林・薪炭林としての雑木林であり、最近言われる所謂「里山」である。当時から、このような雑木林を、平地ではあっても「山」と呼んでおり、現在も「エ

ックス山」と親しみをもって呼ばれている。

エックス山は、早くから、市と地権者とのあいだに「保存樹林」契約が取り交わされたため、市内最大の樹林地として残り、豊かな自然が保たれたものである。

2、エックス山の現状

エックス山は国分寺市民にとっては、かけがえのない憩いの場であり、多様な自然生態に触れることのできる場所である。エックス山という樹林地が保全されてきたのは、市が早くから緑地の大切さを認識し、「保存樹林」制度を設け、地権者の方々の理解と協力を得た結果であり、私たち市民は感謝の気持ちを忘れることはできない。幸い、公有地化されるまで、地権者の方々が市の保存樹林としての手入れをされるとともに、地元自治会をはじめ、近隣の方々の努力もあって、エックス山の自然の雰囲気が保たれてきた。

しかし、自然は、人が踏み込めば荒れてくるものである。すでにエックス山においては生活路が何本か通っており、生活路以外にも裸地化が進んでいる。自然を保全し、多様な自然の生態系をいつまでも保ちたいという願いと実際の利用の仕方とは必ずしも一致しないところがあり、裸地化の範囲は年々拡大している。また、主要木のコナラ・クヌギは萌芽更新が極めて難しい大木となり、朽ち木も見られる。多様で豊かな自然を保全するためにも裸地化防止と雑木の若返りの検討が必要である。今後、利用するについても保全と利用との調和を図り、気持ちよく利用できる都市の中の身近な樹林地としてのエックス山になるよう願うところである。

3、エックス山の存在意義

エックス山は、市内の平地にある樹林地として自然に触れることのできるやすらぎの場を市民に提供している。また、買い物、通学、通勤の生活路として利用もされている。近くの幼稚園・保育園の園児たちが四季を通して、自然にふれる場所として遊びにも来ている。春は花に、夏は虫に親しみ、秋は落ち葉や木の実拾いに人々が代わる代わる訪れている。子どもはもっぱら昆虫に熱中し、大人は緑陰に暫し静かな時を過ごす。

昭和40年代から周囲に住宅が建ち始めたが、その頃から住んでいる方は、エックス山はもつと背の低い、細い木の明るい林であった記憶を留めている。畑の向こうにエックス山の林が遠望でき、林の色合いが春夏秋冬それぞれに美しい変化を見せる。季節の移り変わりが実感でき、その映像をふるさとの景色として脳裏に焼き付けている方も多い。

このように市民にとってエックス山は、四季を感じさせてくれる、気持ちのやすらぐところであり、子どもの頃から昆虫や植物など自然と親しんだ場である。生活路としても使用され、森林浴を楽しむ場ともなっているかけがえのない雑木林である。

エックス山には72科219種の植物が確認されており（*1）、1.36haの広さでこれだけの植物が出現していることは特筆すべきこと（*2）である。これらの植物の中には「東京都の保

護上重要な野生生物種」でCランクに評価され、環境省レッドデータブックの希少種に相当するものも含まれている。また昆虫においてもCランクに評価されているものもいるが、そうでなくとも、国分寺市としては希少種であり、ぜひとも保護したいものも数多く生息している。

これらの植物や動物は、エックス山が里山として管理されてきたために自然遷移が抑制され、そのために生きてくることができた生物である。管理された里山でないと生息できない植物や動物がエックス山には多数生息していることを銘記したい。従って、自然遷移の抑制、或いは抑止としての管理を放棄すれば、これらの動植物は忽ち消失してしまう生物たちである。この意味から、エックス山は適切な人手を入れた管理をすれば、多くの里山の生物が保全できる可能性を秘めた里山なのである。

1.36haの広さの樹林地は国分寺市にとっては大きな樹林地であるが、生物のハビタット（生息空間）としては必ずしも十分な広さではない。それ故、細心の注意をもって保全管理に当たらなければならない。例えば、手を加えて林冠の一部を開け、意図的に林冠ギャップ（間隙）をつくる。そうすることによって、土壌シードバンクの埋土種子を目覚めさせることができる。或いは、手を加えず一部藪を残す、マント群落を残すなどして、多種多様な自然空間を生み出せば、多くの生物がニッチ（生態的地位）を確保することができる。このように同じエックス山でも適切なゾーニング（地種区分）によるきめ細かな管理をすれば、多種多様な生物を呼び戻すことができるようになる。このことはエックス山が市民の貴重な緑の財産であることを証明するものでもある。

（*1 ハケの自然を守る会作成「国分寺崖線の植物目録」2004年度最終報告による。）

（*2 「人と自然」第6号 服部保他論文「里山の現状と里山管理」面積と出現種数関係式による。）

IV、市内の緑の実態

市内の緑の実態については、「国分寺市緑の基本計画」の第2章「現況の水と緑の課題」に詳述されている。

全体的な課題としては

- (1) 緑地系と水系の分布に関する課題
- (2) 都市公園に関する諸課題
- (3) 自然系緑地の減少と保全に関する課題
- (4) 農地への高い依存度に関する課題
- (5) 施設内緑地の重要性に関する課題
- (6) 水系の衰退に関する課題

が指摘されている。

個別的な課題としては

- (1) 崖線緑地の新たな形成のための宅地内緑化
 - (2) 平地林がほとんど民有林
 - (3) 社寺林の評価と特性の検討
 - (4) 高木のほとんどが屋敷林にある
 - (5) 生産緑地と宅地化農地
 - (6) 公共公益施設の緑化
- などの諸課題が指摘されている。

V、エックス山等市内の緑の整備の方向性

1、「国分寺市緑の基本計画」の具現化

「国分寺市緑の基本計画」には、その計画を実現していくための基本方針として、以下6項目が提示されている。

- (1) 水や緑そして生き物などの自然が豊かで、市民が学び触れ合えるまちづくりを進めます。
- (2) 身近な緑の保全と創出によって個性ある地域づくり、安全で豊かな生活環境づくりを進めます。
- (3) 歴史文化が育んだ水や緑を保全・回復し、次世代に継承するまちづくりを進めます。
- (4) 農が生きづくまちづくり、ハケ（崖線と湧水）を大切に、誇りにできるまちづくり、そして誰もがうるおい親しめる公園・緑地づくりを進めます。
- (5) 市内及び周辺の緑地や水辺は生態系や市民生活を考えてつなぎ、水と緑のネットワークづくりを進めます。
- (6) さまざまな緑地や水辺を市と市民、事業者が連携し、協働して守り、つくり、育てるしくみづくりを進めます。

以上の基本方針は、国分寺市民の叡智を結集して作成されたものであり、エックス山等市民協議会もこれを尊重しなければならない。エックス山の保全・整備もこの方針に則って進められる。しかし、エックス山等市民協議会は、これらの方針に加え、自然に関する樹林地、緑地、水辺などをネットワークとして結びつけるだけでなく、それぞれの個性を發揮させながら多種多様な自然生態をそのまま市民に提供するエコミュージアム構想を提案する。エコミュージアムは、自然環境だけではなく、歴史・伝統に根ざした社会生活環境も含めた総合的な生活・環境博物館と位置づけられている。このエコミュージアムは文化財を収集して博物館という建物の中に展示するのではなく、現地において保存・展示するものである。これがエコミュージアムの本来の考え方はあるが、エックス山等市民協議会は、多分に、自然生態に軸足を置いたエコミュージアムを

構想している。

2、エコミュージアムの重要な拠点としてのエックス山

エックス山は国分寺崖線の上、武蔵野段丘面にあり、水には恵まれていない。しかし、エックス山は前述のように 1.36ha もある平地林で、まだ裸地化していない部分も相当残されている雑木林であり、クワガタムシやカブトムシなど樹林地の昆虫が観察できる。秋には木の実、落ち葉の観察や、これらを使った昔からの遊びの体験もできる。冬には落ち葉かきをして堆肥作りも体験できる。

一方、例えば、水に恵まれた姿見の池では湿地の生物（カエル、トンボなど）を再生・保全する。背後の日影山は、これら生物の隠れ場所となっていて、池と山とが関係した生態が観察できる。さらに、姿見の池の湿地の一部を田んぼにし、水車小屋をつくるなどすれば、水辺とその歴史景観を取り戻すことができる。

このように、エックス山や姿見の池のような市内の緑地がそれぞれの特長を活かした自然の生態と歴史景観を市民に提供できれば、それが、エコミュージアムの一部を形成することになる。両方が無理やり同じものの保全・再生を図る必要はなく、それぞれの自然にせよ、歴史にせよ、生態のよさが発揮できるように保全・再生を図ることが大切である。

このように考える時、エックス山はその広さと自然の豊かさからエコミュージアムの重要な拠点を担う樹林地としての自然の保全・再生に大きな期待がもてる。

3、エックス山に対する市民の願い

(1) エックス山を利用している周辺住民の意向

エックス山を利用している周辺住民の方は、生活の中で日々エックス山に触れているので、エックス山に対して大変な愛着を感じておられる。整備に関する要望・意向は主として以下のようである。

- ①昔は、林の樹木の背はそれほど高くはなく、もっと明るい林だったので、昔のようにしてほしい。
- ②生活路として使っているが、あまり制限はして欲しくない。
- ③子ども達が遊ぶには暗すぎ、林床のササ（アズマネザサ）の丈も高く見通しが悪い。安全・安心のため、林床のササや低木の常緑樹は低く刈り取って欲しい。
- ④境界の高木の枝が伸びすぎて日影をつくっている。切ってもらいたい。
- ⑤虫が寄りつくような樹液の出る木を増やしてほしい。

(2) 市民の意向（団体ヒヤリングを踏まえて）

市民の要望・意向は、団体ヒヤリングを通して伝えられている。それらの意向は集約すると主として次のようである。

- ①自然のままで自由に遊べる場として開放して欲しい。
- ②場所の特性を活かしゾーニングして保全・再生を図る。
- ③狭いのでゾーニング効果には疑問である。
- ④エコミュージアム的な視点で保全・再生を図る。
- ⑤近隣に迷惑がかからないようにしてもらいたい。
- ⑥境界外に出た枝は切ってもらいたい。
- ⑦高木は切らないで欲しい。
- ⑧歩道、生活道路、散策路をつくり、それ以外立ち入らないようにしてほしい。
- ⑨あまり手を入れず自然のままにして欲しい。
- ⑩剪定や伐採は痛々しくならぬようにして欲しい。
- ⑪落ち葉や朽ち木は全部撤去するのは止めて欲しい。
- ⑫倒木、朽ち木は危険なので処理して欲しい。
- ⑬鳴く虫を放虫して繁殖させる区域を設定して欲しい。
- ⑭カブトムシ、クワガタムシの家を作ってください。
- ⑮萌芽更新しないと林がだめになるので、萌芽更新してもらいたい。

以上、保全・管理に対する要望・意向の部分だけを抽出した。これらの要望・意向を尊重しながら、検討を加え、よりよいエックス山の保全・管理手法を探していきたい。

VI、エックス山整備方針

1、エックス山等市民協議会のエックス山整備の理念

エックス山等市民協議会では、エックス山の保全・管理はどうあるべきかについて、エックス山を利用している周辺住民の方々の要望・意向、市民団体を中心にした市民の要望・意向などを基に、自然保護活動をしている市内活動団体の植生調査・生物調査結果などを参考にし、エックス山等市民協議会として3年間に亘り協議を重ねてきた。その結果、市民の願いをさらに発展させ、多様な自然を保全するものとして次のような理念のもとにエックス山を整備していくことにした。

市内の樹林地、緑地、水辺は、それぞれの特性を生かしてネットワーク化し、自然を主にしたエコミュージアムをつくる。エックス山はその重要な拠点成すものとして整備し、市民に多様な自然環境を提供する。

2、エックス山整備の方針

エックス山は市内の自然を主にしたエコミュージアムの重要な拠点成すものとして整備するために、下記3点を整備の基本方針と位置づけた。

(1) 昭和20～30年代の雑木林を想定した山の再生。

昭和20～30年代の雑木林は薪炭林、農用林として計画的に手を入れられていた。すなわち、薪炭にふさわしい太さ以上に成長した雑木は伐採し、萌芽更新がなされ、常に薪炭にふさわしい太さの若木が準備されていた。林床には適度に陽光が射し込み、明るい林が構成され、林床の野草はいきいきと生長することができた。それらの植物を生活の糧とする昆虫類もまた、十分繁殖することができた。このような環境のもとにエックス山もまた、生物の多様性が担保されてきた。エックス山の管理では、今後、このような自然環境を想定した里山を再生していく。

しかし、言うまでもなく、エックス山の再生に当たっては、全てを一斉に同じ状態に管理するというのではない。順次雑木の若返りを図る区域と、手をあまり加えない区域を指定するなど、ゾーニングに工夫を加え、多様なニッチが存在し、生物の多様性が確保できる里山になるようにしていく。

(2) 自然観察や憩うことのできる緑空間の再生。

エックス山の自然は、現在でもかなり豊かであり、自然観察をしながら自然に触れることのできる素晴らしい緑空間である。しかし、それだけに人も入り、その踏圧による裸地化は確実に進行している。そのために人が踏み込む範囲を制限するなどして裸地化を防止し、市民が50年後、100年後においても憩うことのできる、下草も生え、緑陰も楽しめる緑空間を再生していく。そこでは子どもたちも樹林の中で自然観察を満喫することができる。

(3) 生活と調和した都市の中の自然の再生。

エックス山は、遠くから見ている人にとっては、四季それぞれに潤いを与えてくれる緑豊かな林である。しかし、隣接する市民にとっては、エックス山の樹木の枝が庭先まで伸びてきたり、高く伸びすぎた樹木が庭先や畑に日影をつくり、虫の大発生や落ち葉の処理などで迷惑を掛けている部分も多分にある。大自然の中のエックス山ではなく、都会の中のエックス山である。迷惑に感じている市民とも折り合いながら、どの市民も「このエックス山ならいい」と言えるようなエックス山にしたい。「都市の中のエックス山」という位置づけをはっきりさせ、生活と調和させた自然の在り様を模索しながら、都市の中の自然としてのエックス山を再生していく。

3、エックス山整備の具体的内容

整備の具体的内容を整備方針に即して立案した。

(1) 昭和20～30年代の雑木林を想定した山の再生のために

- ①樹木の若返りを図る。
- ②山野草の再生・復元を図る。

③各種生物の再生を図る。

そのために行うこと

- ア、林床のアズマネザサの定期的刈り取り
- イ、ゾーニングによる計画的保全
- ウ、樹木更新の実施
- エ、植樹の実施
- オ、播種・育苗の実施
- カ、各種生物が集まる植物の保護・育成
- キ、その他

(2) 自然観察や憩うことのできる緑空間の再生のために

- ①自然観察が可能な林とする。
- ②子ども達が自然に触れることのできる林とする。

そのために行うこと

- ア、自然観察路の設定
- イ、クワガタムシ、カブトムシの育成・繁殖
- ウ、遊び広場の設定
- エ、木登り等のできる樹木の指定
- オ、野鳥の観察ができる自然環境づくり
- カ、その他

(3) 生活と調和した都市の中の自然の再生のために

- ①生活路を設定する。
- ②休憩場所・施設を設定する。
- ③防犯・防火による安全・安心の山づくりを推進する。
- ④林内の発生材は可能な限り再利用を図る。

そのために行うこと

- ア、身障者も利用できる生活路の設定
- イ、利用しやすい休憩場所・施設の設定
- ウ、見通しのよい林づくり
- エ、自然再生のための区域の明確化
- オ、発生材利用の工夫
- カ、その他

4、エックス山整備の方針に基づく作業計画

具体的な作業計画をエックス山整備の基本方針及びその内容に沿って立案する。

(1) 昭和20～30年代の雑木林を想定した山を再生するために

- ①時期を決めて定期的にアズマネザサを刈り取る。ただし、根は残しておき、保護する。また、区域を定め、年次を設けて行う。
- ②アオキ、シュロ、ネズミモチなどの常緑樹は適宜除伐する。ただし、その生態を観察するために必要な本数は保護する。
- ③林をゾーニングし、樹木更新を計画的に実施する。
- ④萌芽更新が出来ない場合は苗木を植樹する。
- ⑤苗木を植樹するため、予め種子を集め、播種・育苗する。
- ⑥野鳥や昆虫などが集まる植物の植樹を行う。

(2) 自然観察や憩うことのできる緑空間を再生するために

- ①自然観察路を設定し、自然観察会の実施や参考資料を作成する。
- ②カブトムシやクワガタムシの育成・繁殖を図るため、腐葉土をつくる囲いや朽ち木堆積場などを設置する。
- ③遊び場広場を指定し、安全に利用できるルールづくりをする。
- ④解説板などを設置し、自然を大切にすゝる気持ちの啓発を図る。
- ⑤野鳥の巣箱作りなどをする。

(3) 生活と調和した都市の中の自然を再生するために

- ①生活路は身障者も利用できる幅を備え、自然を考慮した舗装をする。
- ②森林浴が楽しめるようにテーブル、椅子を設置する。
- ③低中木の適宜の除伐を行う。
- ④伐採樹木や落ち葉、刈り草などは林内で可能な限り、再利用を図る。

VII、今後の展望

今後は、エックス山については、作業実施の日程表を作成し、順次作業を進める。また、市内の他の樹林地・緑地・水辺についてはエックス山と同様、整備方針を立て、整備をしていく。

将来的には自然生態だけでなく市内の文化・生活・歴史景観などを結びつけた本来のエコミュージアムを実現させることを願っている。

西恋ヶ窪緑地整備方針全体計画表

市全体目標	市内の樹林地・緑地・水辺をそれぞれの特性を生かしてネットワーク化し、自然を主にしたエコミュージアムをつくり、市民に多様な自然環境を提供する。		
市全体目標実現のため、エックス山をエコミュージアムの重要な拠点として以下のように整備する。			
エックス山整備の基本方針	(1) 昭和20～30年代の雑木林を想定した山の再生	(2) 自然観察や憩うことのできる緑空間の再生	(3) 生活と調和した都市の中の自然の再生
内容	①樹木の若返りを図る。 ②山野草の再生・復元を図る。 ③各種生物の再生を図る。	①自然観察が可能な林とする。 ②子ども達が自然にふれることのできる林とする。	①生活路を設定する。 ②休憩場所施設を設定する。 ③防犯・防火による安全・安心の山づくりを推進する。 ④発生材の再利用を図る。
具体的内容	①林床のアズマネザサの定期的除草 ②ゾーニングによる計画的保全 ③樹木更新の実施 ④植樹の実施 ⑤播種・育苗の実施 ⑥各種生物が集まる植物の保護・育成 ⑦その他	①自然観察路の設置 ②クワガタムシ・カブトムシの育成・繁殖 ③遊び広場の設置 ④木登り等のできる樹木の指定 ⑤野鳥の観察ができる自然環境づくり ⑥その他	①身障者も利用できる生活路の設置 ②利用しやすい休憩場所・施設の設置 ③見通しのよい林づくり ④自然再生のための区域の明確化 ⑤発生材再利用の工夫 ⑥その他
具体的活動	①時期を決めてアズマネザサを刈り取る。ただし、根は残しておき、保護する。また、区域を定め、年次を設けて行う。 ②アオキ、シュロ、ネズミモチなどの常緑樹は適宜除伐する。ただし、その生態を観察するために必要な本数は保護する。 ③林をゾーニングし、樹木更新を計画的に実施する。 ④萌芽更新が出来ない場合は苗木を植樹する。 ⑤苗木を植樹するために予め種子を集め、播種・育苗する。 ⑥野鳥や昆虫などが集まる植物を保護・育成する。	①自然観察路を設定し、自然観察会の実施や参考資料を作成する。 ②カブトムシやクワガタムシの育成・繁殖を図るため、腐葉土をつくる囲いや朽ち木堆積場などを設置する。 ③遊び広場を指定し、安全に利用できるルールづくりをする。 ④解説板などを設置し、自然を大切にしたい気持ちの啓発を図る。 ⑤野鳥の巣箱づくりなどをする。	①生活路は身障者も利用できる幅を備え、自然を考慮した舗装をする。 ②森林浴が楽しめるようにテーブル、椅子を設置する。 ③低中木の適宜の除伐を行う。 ④伐採樹木や落ち葉、下草などは林内で再利用を図る。

西恋ヶ窪緑地整備方針

平成19年（2007年） 2月

編集・発行/国分寺市都市建設部緑と水と公園課

〒185-8501 国分寺市戸倉1-6-1

電話 042-325-0111（内線354）

協力：通称エックス山等整備方針の検討に関する市民協議会